No.	アドバイスまとめ
1	市のイベントや老人ホームでの演奏への参加
2	一時的に必要なお金はクラウドファンディングを活用、継続的に必要なお金は病院や施設などの慰問演奏を小規模で実施して投げ銭を募る
3	魅力発信のため、低中学年の小学生を招いたファミリーコンサートなどを実施
4	学校を回って演奏する仕組みつくり
5	子供をターゲットにしている企業のスポンサーを取りに行く(東邦銀行など)
6	オーケストラ下部組織（管打楽器による付属吹奏楽ユニットや、弦楽器初心者向けアンサンブルユニット）を設け、オーケストラに乗れるまでの準備期間を用意することで、未経験者をも募集対象に拡げる（FTVJOアカデミー？）
7	対象年齢（卒団）の拡張（20歳や22歳まで）で現役団員の数の確保（ユースオーケストラ化？）
8	OBやOGはもちろん、より広い範囲からの福島にゆかりのある現役プロフェッショナルオーケストラプレイヤーによるレッスンを四半期に一回
9	福島市民オケ、郡山市民オケ、福島大学オケ、県立医科大学オケ、フィルジッヒ、ユーゲントフィルなどとの協力連携関係
10	FTVでの放送は無くなっても、演奏映像のYoutubeアップや地元ケーブルテレビなどでの放送
11	本番に向けて発生する作業等を細分化して、紙にリストアップ、役職についたりするのは荷が重いと言う人でも、軽目の仕事の提示
12	他の中学や高校の吹奏楽部などとコラボ
13	郡山ジュニアフィルと合併、定期演奏会は福島市と郡山市交互に行うなど
14	子供たちのモチベーションにつながるような活動
15	面接から入団までの流れの詳細の見える化（Web掲載）
16	学校の部活ではできないような活動（独自性、売り）
17	諸々不安な点に回答するFAQの掲載
18	福島市に限らず、郡山市、二本松市、伊達市なども視野に入れて宣伝活動
19	演奏希望の依頼を受けるフォーム作成
20	終演後に投げ銭が出来るようにクラウドファンディングのQRコードを載せる
21	福島県や福島市のジュニオケとなる
22	少人数の機動力を活かして、路上ライブで投げ銭を募る
23	動画を投稿して収益化を目指す
24	スポンサーの確保
25	曲目を見ただけで「聴いてみたい＝弾いてみたい」とたくさんの人が思うような演奏会。アニメやポップスの音楽等々。
26	毎週でなく隔週での参加。そうすると福島市外から集めやすい。その場合会費の検討が必要？
27	小中学校向けに、楽器体験やオーケストラ演奏体験などの機会を設ける
28	OBOGによる金銭補助、年間一口5,000円、OBOG全員が一口ずつ寄付できれば大きな金額になる
29	指揮者、指導陣については、可能な限り地元で活動している人材を充て、経済的な負担を減らす。
30	高度な演奏を目指すのではなく、誰でも受け入れ、質の良い教育をする団体を目指す。
31	団員（特に中学生以上）にどんなことをしてみたいか聞いてみる
32	親やOBも団員として活動
33	団員が少ない時は小編成のアンサンブルをレパートリーに
34	団員の対象地域を広げる: 例えば、東京等でも活動(OBの子女もいるかも？)
35	貸出できる楽器リストの公開（現在貸出中なども表記）